

特色ある学習内容を目指して

～各学科の取り組み～

福島県立平商業高等学校校長 大森 孝夫

1. はじめに

『地域社会に応える専門教育を目指して』

昨年創立90周年を迎えた本校は、伝統と校風をさらに発展させるべく、決意を新たに、新世紀の国際化・情報化社会で活躍できる人材の育成を図り、生徒の適性を生かした進路実現に応ずる商業教育を目指している。特に主体性を育み、自主的な活動を推進し、自己実現の意欲向上を目指している。また、地域に根ざす商業高校としての特色を生かした教育内容の充実と実績の向上に努力しているところである。

2. 各学科の取り組み

本校は、国際化や情報化、サービス化に伴う社会の変化や学習指導要領の改訂、総合学科をはじめとする高等学校改革が進むなか、専門高校のあるべき姿を探求し、平成9年に学科改編を実施した。教育課程編成は各学科の特色を生かし、専門教育を取り巻く環境や多様化した生徒の実態を踏まえ、個性の伸長を図るとともに、社会の発展に貢献できる心豊かな職業人の育成を目指すものとした。

3. 本校の4学科の特色

- (1)今日の情報化、国際化、サービス経済化などの時代の進展に対応する。
- (2)生徒の多様化する進路や個性に対応するため、選択制の拡大を図る。
- (3)4学科の施設設備・学習内容などを相互に取り入れ、各学科の特性を生かした相乗効果が期待できる教育課程の編成に取り組む。
- (4)専門学科における進学志向が高

まったことを十分に考慮した上で、全学科からの進学率の向上を目指す。

4. 教育課程を編成するにあたっての工夫と課題 —生徒の多様化する進路実現にむけて—

本校は4学科の専門校である。各学科では可能な限り、授業内容や資格取得においての特色を出すための工夫した教育課程の編成を行っている。

平成17年度教育課程表

※△○○ 選択

教科	科目	学年		国際経済科			流通ビジネス科			情報システム科			OA会計科			
		1年	2年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
国語	国語表現Ⅰ			3			3			3			3			
	国語総合	3				3			3			3				
	現代文			3			3			3			3			
	国語演習			※2	※2		※2	※2		※2	※2		※2	※2		
地理歴史	世界史B			3			3			3			3			
	地理A			2			2			2			2			
公民	現代社会	2			2		2			2			2			
	数学Ⅰ	3			3		3			3			3			
数学	数学Ⅱ		2	2		2	2		2	2		2	2	2		
	数学A		※2			※2			※2			※2		※2		
	数学B			※2		※2			※2			※2		※2		
	理科総合A	2			2		2		2			2		2		
理科	化学Ⅰ			3			3			3			3			
	生物Ⅰ		△2	△2		△2	△2		△2	△2		△2	△2			
保健体育	体育	2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	3		
	保健	1	1		1	1		1	1		1	1		1		
芸術	音楽Ⅰ	2			2		2		2			2		2		
	オーラル・コミュニケーションⅠ	2			2		2		2			2		2		
外国語	英語Ⅰ	3			3		3		3			3		3		
	英語Ⅱ	3	4		3	2	3	2	3	2		3	2	2		
	リーディング	3														
	ライティング															
	総合英語演習	△2	△2		△2	△2		△2	△2		△2	△2		△2		
家庭	家庭総合	2	2		2	2		2	2		2	2		2		
	生活産業基礎	△2	△2		△2	△2		△2	△2		△2	△2		△2		
情報	情報A															
	(選択コース単位数)			4	4		4	4		4	4		4	4		
(選択コース含み単位数)		20	18(22)	20(24)		20	15(19)	18(22)		20	15(19)	18(22)		20	15(19)	18(22)
商業	ビジネス基礎	2			4		4		4		4		4			
	課題研究			3			3		3		3		3			
	総合実践			2			2		2		2		2			
	商品と流通					△2										
	商業技術			※2			2	○2		2						
	マーケティング					3							※2			
	英語実務	2	3							※2						
	経済活動と法			△2			※2			△2				※2		
	国際ビジネス	5	2			5			3			5				
	簿記		※2			※2				※2			4			
	会計		△2			△2			△2			2	2			
	原簿計算															
	会計実務															
	情報処理	2				2			4				4			
	ビジネス情報						△2				2			※2		
	文書デザイン			※2			※2		※2				※2			
	プログラミング									4			4			
情報演習									4			4				
ビジネス演習					3	○2										
簿記演習						△2		※2								
会計演習			※2										2			
ビジネス計算演習													△2	△2		
(選択コース単位数)				4	4		4	4		4	4		4	4		
教養	専門科目計	9	7(11)	5(9)		9	10(14)	7(11)		9	10(14)	7(11)		9	10(14)	7(11)
	国際交流	○2	○2	○2												
	小計	29(31)	29(31)	29(31)		29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
ホームルーム		1	1	1		1	1	1		1	1		1	1		
合計		30(32)	30(32)	30(32)		30	30	30		30	30		30	30		

従来は文科系進学者（国語・英語）、理科系進学者（数学・生物）、就職希望者（専門科目）ごとに自分の進路実現を見据えて学年3単位で選択した。平成14年度入学生からは、2年次2単位2系統、3年次2単位2系統と選択の幅を広げ、さらに普通科目は学年をまたいで選択することで、さらなる深化を目指した学習ができるように工夫を凝らした。

5. 平成17年度教育課程

(p.24の「平成17年度教育課程表」を参照)

●国際経済科

(1)学科のねらい

- (ア)実践的、体験的学習を通して、国際社会において活躍できる能力を育成する。
- (イ)経済社会を国際的な視野から把握し、さらに諸外国の文化を理解させる。
- (ウ)外国語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

(2)取り組み

①語学研修会の実施

1年生(80人)全員対象に、毎年9月初旬2泊3日の日程で、英国風施設であるブリテッシュヒルズ(福島県岩瀬郡天栄村)において、外国人教師だけの教授による語学研修を実施している。ここでは、生徒の語学力を高め、かつ外国文化に触れさせるために、英国式生活様式の体験や外国人教師によるネイティブな英会話を学習している。生徒の感想は「はじめは緊張したが、自然環境に恵まれたなかで、楽しく学ぶことができた」など、英会話や文化に関する興味も深まった生徒が多い。

②海外ホームステイの実施

今年で実施3年目になる。平成14年度から、1年生から3年生までの国際経済化科の生徒より参加



英会話による英国風菓子作り

希望を募り、夏休み中の7月下旬から8月上旬にかけて2週間の日程で、オーストラリアのタウンズビル市で海外ホームステイによる語学研修を実施している。

目的 国際社会で活躍する人材育成を目指すため、海外研修を実施することによって、現地の生活様式を体験しながら、語学力の向上を図る。

- 内容**
- ・英語研修
 - ・現地高校体験プログラム
 - ・施設訪問、見学
 - ・フリーマーケットの開催

- 参加**
- 〈平成14年度〉 12名
 - 〈平成15年度〉 17名
 - 〈平成16年度〉 13名

③英語検定試験対策

国際経済科の1年生から3年生まで、英語検定対策を英語科教員の協力を得ながら年間を通して取り組んでいる。

具体策 英語実務の授業のなかで、1年生と3年生は検定直前に問題集やソフトの活用によって集中的に学習させている。2年生は英語実務の3単位の授業のうち、1単位を検定のための学習に位置づけて強化している。

成果 [実用英語検定合格]

年度	2級	準2級	3級
14年	—	21	31
15年	3	48	41
16年	3	20	10

(平成16年度は7月実施分のみ)

④英語スピーチコンテストの強化対策

英語科の協力を得ながら校内選抜を実施し、選抜された生徒を対象に練習強化している。結果として、県大会ではレシテーションの部で2年連続最優秀賞に輝き、全国大会出場を決めている。他に優秀賞に2人、スピーチの部でも優秀賞を得ている。

⑤進学の充実

国際経済科では、1年次から大学進学希望者が多く、カリキュラム上、英語の授業に重点を置いた指導体制を取っている。結果として、大学進学者31名(平成15年度)のうち13名が推薦合格している。短大は8名が合格。

※今年度、福島大学に推薦入学による合格(実用英検2級取得)

⑥外部講師活用事業

総合実践の授業において、国際交流のあり方について講演会を実施している。講師には、いわき市民国際交流・協力団体連絡会事務局長等を招いて、海外支援やボランティア活動について、身近な視点から、体験を通しての講演をお願いしている。今年度については、海外青年協力隊員として活躍されている方の講演会を予定し、より深く国際理解・国際協力について理解を深めたいと考えている。

●流通ビジネス科

(1)学科のねらい

- (ア)流通を中心とした経営活動において活躍できる能力を育成する。
- (イ)流通活動において必要不可欠な経済の仕組みについての知識を習得させる。
- (ウ)現場実習等の実践的活動を通し、社会人として必要な応対と態度を身に付ける。

(2)取り組み

①「販売士」検定資格取得の指導

具体策 商品流通の基本を学ぶカリキュラムを編成し、その中心に日商「販売士」検定の資格取得を位置付けている。また、新学期に資格取得タイムテーブル一覧表を配布し、検定に対する意識付けを明確にしている。

成果 [日商販売士検定合格]

年度	2級	3級
14年	12	84
15年	14	129
16年	56	33

(平成16年度3級は7月実施分)



販売士検定2級56名合格（「福島民友新聞社」提供）

②ビジネスマナー教育

3年次「総合実践」の授業のなかで、ビジネスマナー・心構え等の指導を行っている。実践室はビジネスの場であり、接客七大用語で始まる。実社会において即戦力となるよう、職場のルールを乱す「遅刻」や「服装」「頭髪」等の身だしなみ指導を徹底して行っている。

ルール・マナー遵守意識の低い生徒に対し、授業担当者から小学科長へ、そして学科長へと段階指導を実施し、意識改革と啓蒙を図っている。

③外部講師活用事業

販売士協会からの講師派遣により、「流通業における人的資質」等の講話を実施し、流通ビジネスの知識習得と販売士資格取得の意識高揚を図っている。

④ジュニア・インターンシップの実施

ハローワークとの共催により、2年生を対象に2学期に実施している。職業観を養い、自己表現のために実社会に出て体験することは大変有意義である。そこで単なる就業体験に止まらず、自己形成を目指しての取り組みとなるよう、事前指導から事後指導に至るまで、綿密な計画のもとに実施している。

⑤「販売実習」による『よっぺ屋』の開店

課題研究「現場実習」の講座で実施している。3年間学んだ知識や技術を発揮する実践の場である。また、地域と触れ合うことによって本校への理解が深まると同時に、地域に根ざした専門高校として町の活性化にも一役買っている。〔市街地活性化の推進として空き店舗を利用し、県内の農業高校や水産高校の生産品と、生徒が実際に行った市場調査による地元人気商品を一挙販売した。商店街の店主からは、「定期的に実施して商店街を活気づけてほしい」との声が多く寄せられた。〕

●情報システム科

(1)学科のねらい

- (ア)プログラミングの学習を通じて創造力や論理的思考力を育成する。
- (イ)企業経営に必要なデータベースの利用やインターネットの活用能力を養う。
- (ウ)システム設計に関する知識、技術を習得させ、

経営に役立つ情報処理システムを構築できる能力と態度を育てる。

(2)取り組み

①『平商寺子屋』（早朝シスアド塾）開講

朝7時20分から8時20分まで、1年生は講義形式、2・3年生はゼミ形式でシスアドの午前・午後問題の演習を行っている。合格者のほとんどは、この『平商寺子屋』で受講した生徒である。

成果 [経済産業省主催初級シスアド合格]

〈平成15年度〉 6名 (春季3名・秋季3名)

〈平成16年度〉 5名 (春季2名・秋季3名)

※今年度、県立会津大学に推薦入学による合格

②うつくしま夢実現プランによる特別課外

夏期休業中に3日間行われ、2年生は全員が対象となる。内容は業務改善の分野、QC七つ道具など。講師は外部から専門学校講師を招いての特別課外である。

③自主教材の作成

担当教諭7人が、初級シスアドの過去問題を分類整理した問題集を作成。2年生は〔ビジネス情報〕〔情報管理〕で、3年生は〔情報管理〕〔情報演習〕や早朝シスアド塾で使用する。現在第4期目である。

④ノート整理の工夫

・正解ノート・合格ノートの採用

授業の一つの単元が終わった段階で、自主教材による練習問題を実施。正解したら正解ノートに、不正解なら合格ノートに貼る。合格ノートに貼った問題は、解説を書き残すように指導する。このことにより、過去どのような問題を解いて、何ができて何ができなかったかを振り返りやすくした。

・採用授業

2年：ビジネス情報、情報演習、プログラミング

3年：情報管理、情報演習

効果 貼りの動作により授業が楽しく、ノート整理における個人差がなくなった。

広範囲の難易度の高いシスアド対策の授業にも、生徒は積極的に参加するようになった。

⑤大型タッチパネルモニター（50インチマルチメディアボード）の採用

教材提示手順を予め記憶させ、中間モニターとの併用で表示する。タッチパネル機能により、パソコン操作の手順を大きな手振りで生徒に紹介する。

効果 教員間での教材共有ができ、生徒に視点を変えた教材提示も可能にし、かつ説明時間の短縮もで



「課題研究」（形態表現）の授業風景
（大型タッチパネルモニター利用）

きた。

●OA 会計科

(1)学科のねらい

(ア)職業資格を取得し、専門職業会計人の道を拓く。

(イ)OA 機器の操作に習熟させ、OA 会計処理技能を身に付けさせる。

(ウ)簿記会計に関する新しいソフトを活用して理解の深化を図る。

(2)取り組み

①「日商簿記2級」資格取得の指導

学科の特性から、1年生の11月・2月に日商簿記2級を受験（希望者）し、2月に3名が合格した。また、1月の全商、2月の全経工業簿記に14名が合格している。4月当初の計画は全商2級受験を目標としたが、生徒の能力に合わせての受験となった。

効果 [日本商工会議所主催簿記検定合格]

〈平成14年度〉 2級 3人 3級 9人

〈平成15年度〉 2級 11人 3級 1人

※今年度、福島大学に推薦入学による合格（日商2級取得）



日商簿記2級夏期講習会

②冬季休業中の補習実施

日商簿記2級対策のために、希望者を対象に実施。部活動にも配慮し、午前・午後の1日2回、計5日間実施した。

③即戦力となる「総合実践」

・服装・身だしなみを指導徹底した授業展開

服装等の改善を要する生徒については、授業担当者から小学科長へ、そして学科長による段階指導体制をとっている。

・ビジネスマナー教育の重視

独自のテキストを使用し、あいさつから始まり職場でのマナー・心構えの指導を重視。

④情報処理

・社会で求められるスキルの向上を図るワープロ・表計算のスキルアップ

・会計ソフトの活用

⑤日商簿記2級夏期講習会

専門学校講師を招き、生徒対象の日商簿記2級の

講習会を実施した。標準原価計算・直接原価計算・CVP・原価予測等を中心に指導した。

⑥学校開放講座（夜間）

市内の一般の方を対象に、日商簿記2級講座を3か月実施した。本校のOA会計科の生徒も受講し、2名が合格した。

6. おわりに

商業教育がビジネス教育に移った今日、地域社会との各方面の連携はますます重要になってきている。本校が地元企業や地域から『平商』として信頼され愛されるために教員・生徒が一体になり、積極的な実践活動を推進していきたい。また、企業や地域との連携が専門高校の活性化につながり、生徒たちの勤労観や就労意識を高揚させることで、地域経済の発展に貢献できれば、商業教育の評価は大いに高まるものと思われる。

実教出版発行 日商検定関連教材

合格学習システム

教えて! NET for School

検定試験に合わせたCD-ROM教材なので、
各自の理解・進度に合わせて学習できます。

日商簿記検定2級工業簿記 定価 21,000円

日商簿記検定2級商業簿記 定価 21,000円

日商簿記検定3級 定価 21,000円

※それぞれスクールパックがあります。

3月発行予定

平成17年度版 日商簿記検定模擬試験問題集

2級 商業簿記・工業簿記 定価 840円

3級 商業簿記 定価 750円

ジャンル別 日商簿記検定試験演習

2級 定価 830円

3級 定価 740円

特徴① 先生をサポート!

メールによるご質問の受付や、最新情報のご提供で先生をサポートします。

特徴② 充実の学習システム!

講義→確認問題→完成問題→まとめ問題→模擬試験問題の充実した学習システムです。

特徴③ 楽しく学習!

最後に修得度がわかるので、楽しく自習することができます。

最新段階式 日商簿記検定問題集

2級 工業簿記 定価 860円

2級 商業簿記 定価 950円

3級 定価 900円

2005年2月15日 印刷
2005年2月20日 発行
定価 210円
(本体200円)

◎編集・発行

実教出版株式会社

代表者 島根 正幸

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
TEL. 03-3238-7777
<http://www.jikkyo.co.jp/>